

2022年3月期 第3四半期

# 決算概要

長瀬産業株式会社

2022年2月9日

■ 連結損益計算書	P3
■ 所在地別 売上総利益	P4
■ 業態・セグメント別売上総利益 2期比較	P5
■ 業態・セグメント別営業利益 2期比較	P6
■ セグメント 営業利益概況	P7~P11
■ 主要製造子会社の業績概要	P12
■ 連結貸借対照表	P13
■ 通期業績見通し	P14~P15
■ 株主還元状況	P16

# 連結損益計算書

## ▶ 売上総利益

- ・全セグメントで増益となり、第2四半期に続き売上総利益以下すべての段階利益で第3四半期累計の過去最高値を更新
- ・特に自動車、樹脂およびエレクトロニクス関連ビジネス、Prinovaグループにおけるニュートリション関連ビジネスが好調

## ▶ 営業利益

- ・売上総利益の増加を受けて、新型コロナウイルス感染症の影響が大きかった前年同期と比べて営業利益は大幅に増益

## ▶ 四半期純利益

- ・政策保有株式の売却益が減少するも、経常利益までの大幅な増益を受けて四半期純利益も増益

(単位:億円)

	20/12	21/12	増減額	前年同期比	通期見通し (修正前)	進捗率
売上高	4,539	5,741	+ 1,201	126%	—	—
売上総利益	837	1,041	+ 203	124%	1,300	80%
<利益率>	18.4%	18.1%	△0.3pt	—	—	—
販売費及び一般管理費	676	759	+ 83	112%	1,000	—
営業利益	160	281	+ 120	175%	300	94%
経常利益	171	301	+ 130	176%	310	97%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	165	222	+ 56	134%	225	99%
US\$レート (期中平均)	@ 106.1	@ 111.1	@ 5.0 円安		@109.5	
RMBレート (期中平均)	@ 15.4	@ 17.3	@ 1.8 円安		@16.9	

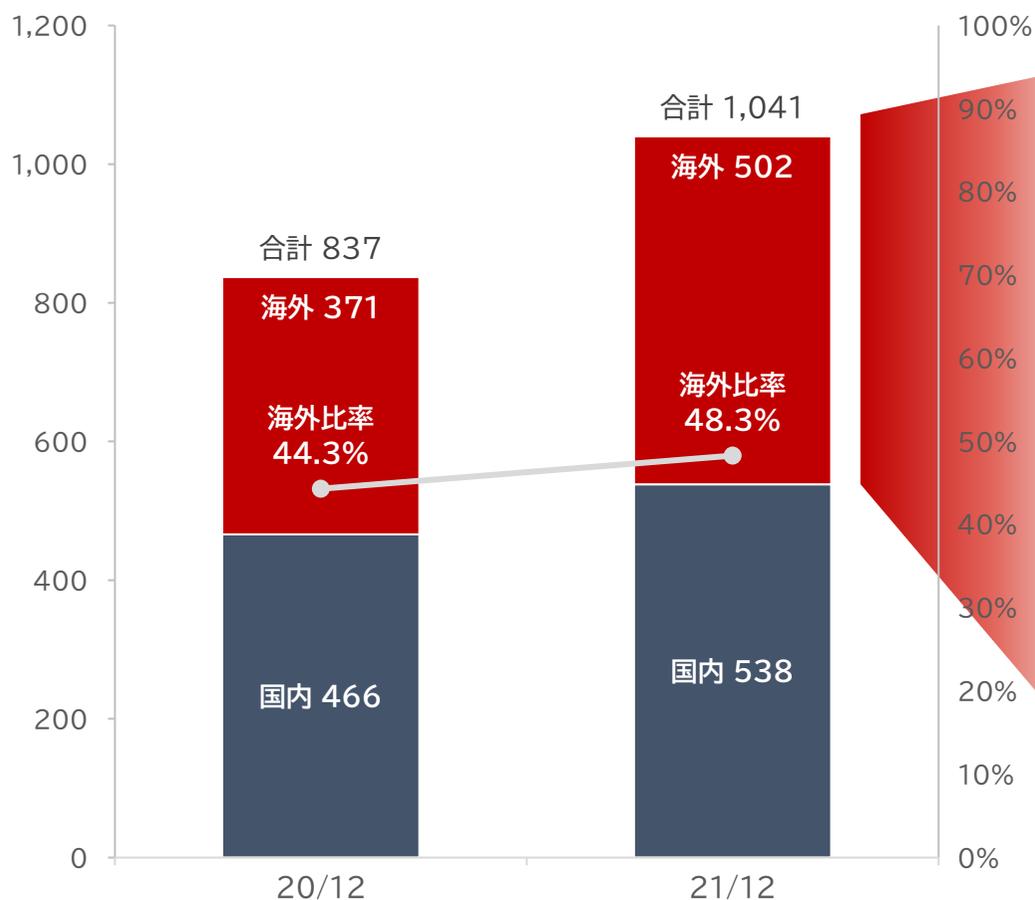
※ 収益認識基準適用による売上高および売上原価の相殺額 20/12 △1,505億円 21/12 △1,817億円

※ 為替の影響 【売上総利益】+20億円 【営業利益】+6億円

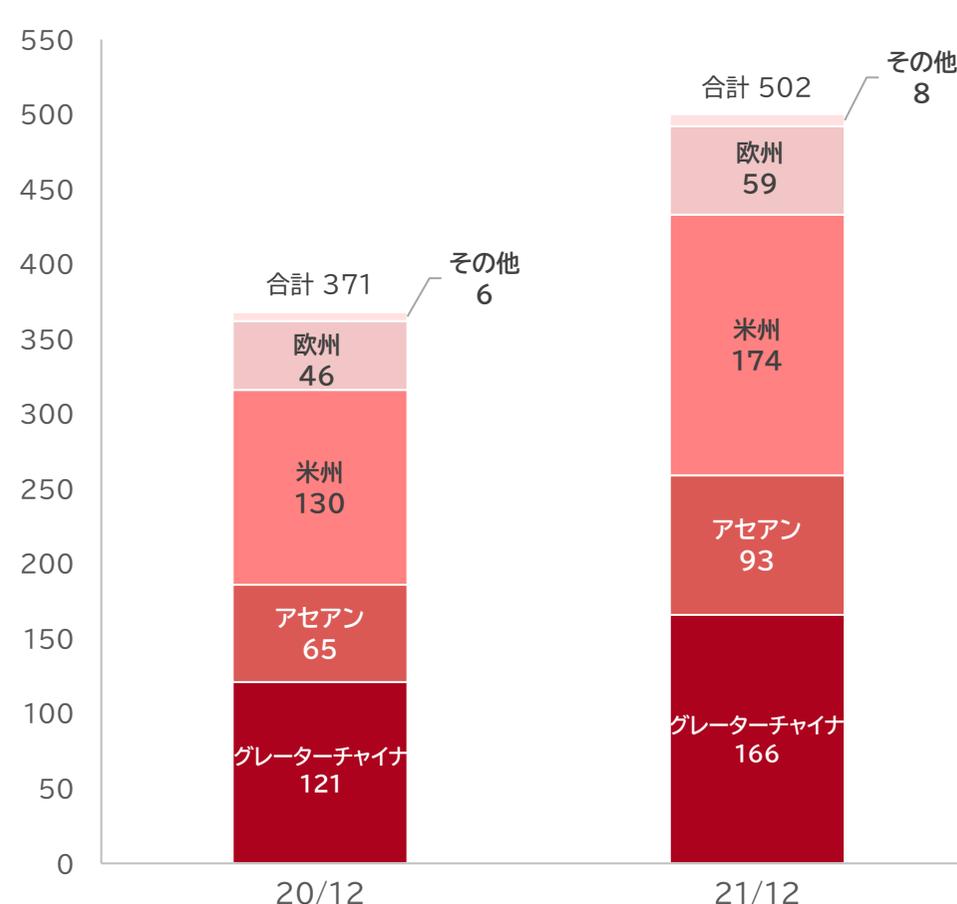
# 所在地別 売上総利益

- ▶ 国内および海外ともに増益
- ▶ 国内は特に自動車関連ビジネス、モバイル機器・ディスプレイ用途向けのエレクトロニクス関連ビジネスが好調
- ▶ 海外はグレーターチャイナ、アセアンを中心とした主にOA・ゲーム機器関連向けの樹脂ビジネスや、欧米におけるニュートリション関連ビジネスが好調

## 国内・海外売上総利益（億円）



## 海外売上総利益の地域別内訳（億円）



※ 2022年3月期より従来の仕向け地別の海外売上高に代えて、連結会社の所在地別に集計した売上総利益を地域別情報として開示しております。

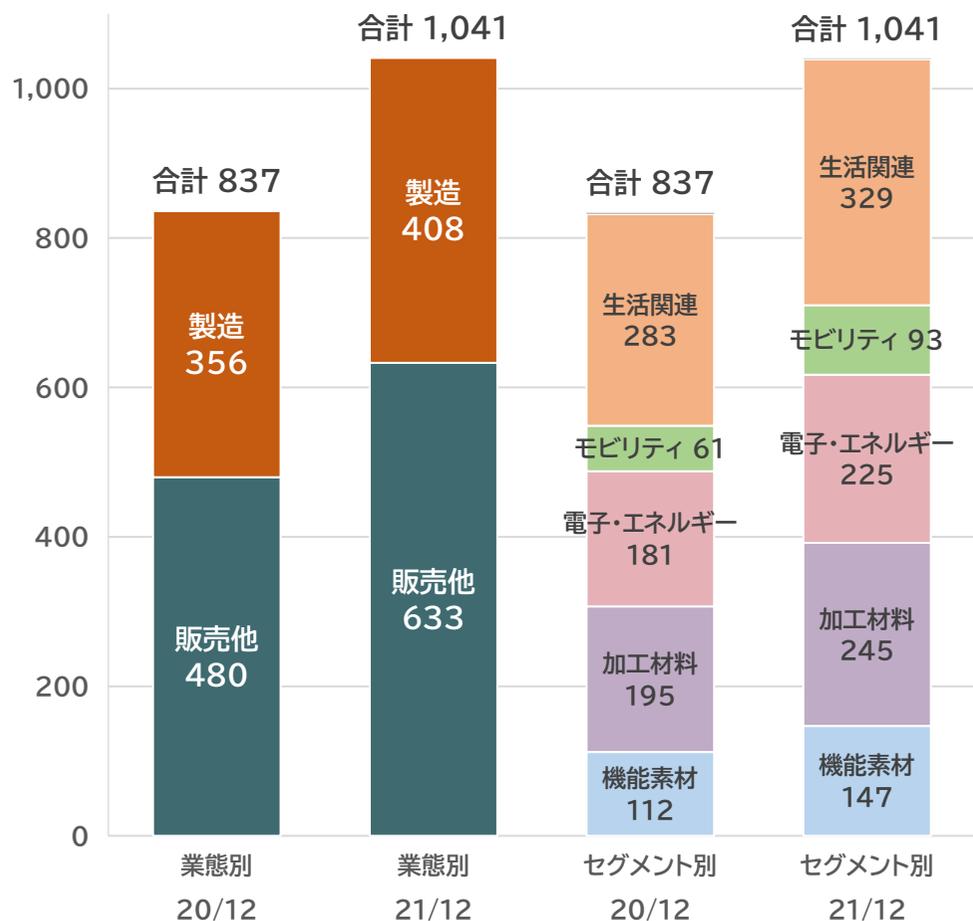
※ 国内・海外売上総利益における国内の数値は地域間調整を含みます。

# 業態・セグメント別売上総利益 2期比較

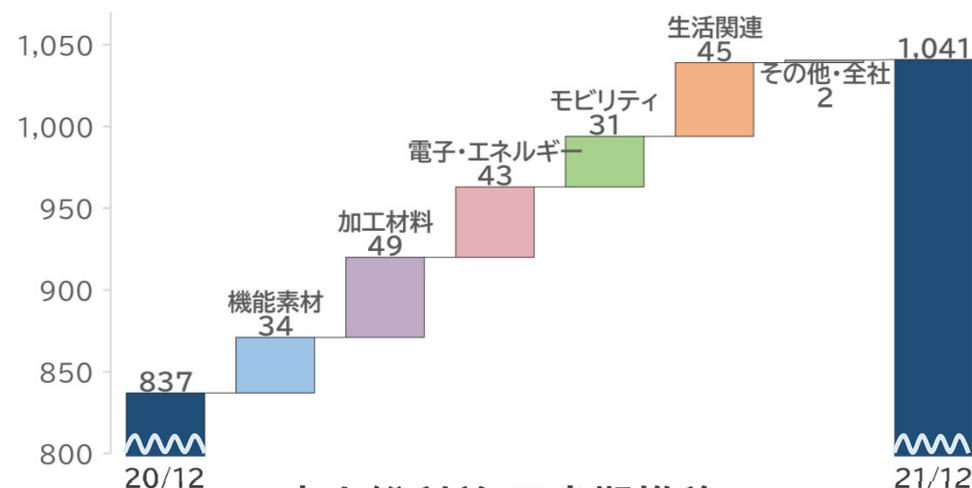
- ▶ 全セグメントにおいて増益となり、過去最高の第3四半期累計売上総利益
- ▶ 加工材料は樹脂ビジネスにおける堅調な需要と、市況高騰の影響を受けて収益性が改善
- ▶ 生活関連はPrinovaグループにおけるニュートリション関連ビジネスの好調や、化粧品素材の販売好調を受けて増益

※各セグメント数値の比較情報は2021年4月1日付けで実施した事業区分の変更による影響を反映したもの

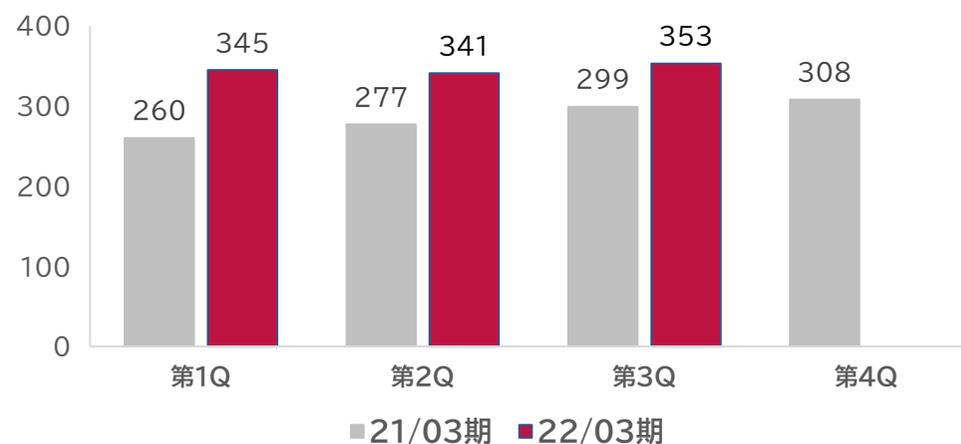
### 業態・セグメント別 売上総利益 (億円)



### セグメント別 売上総利益 増減 (億円)



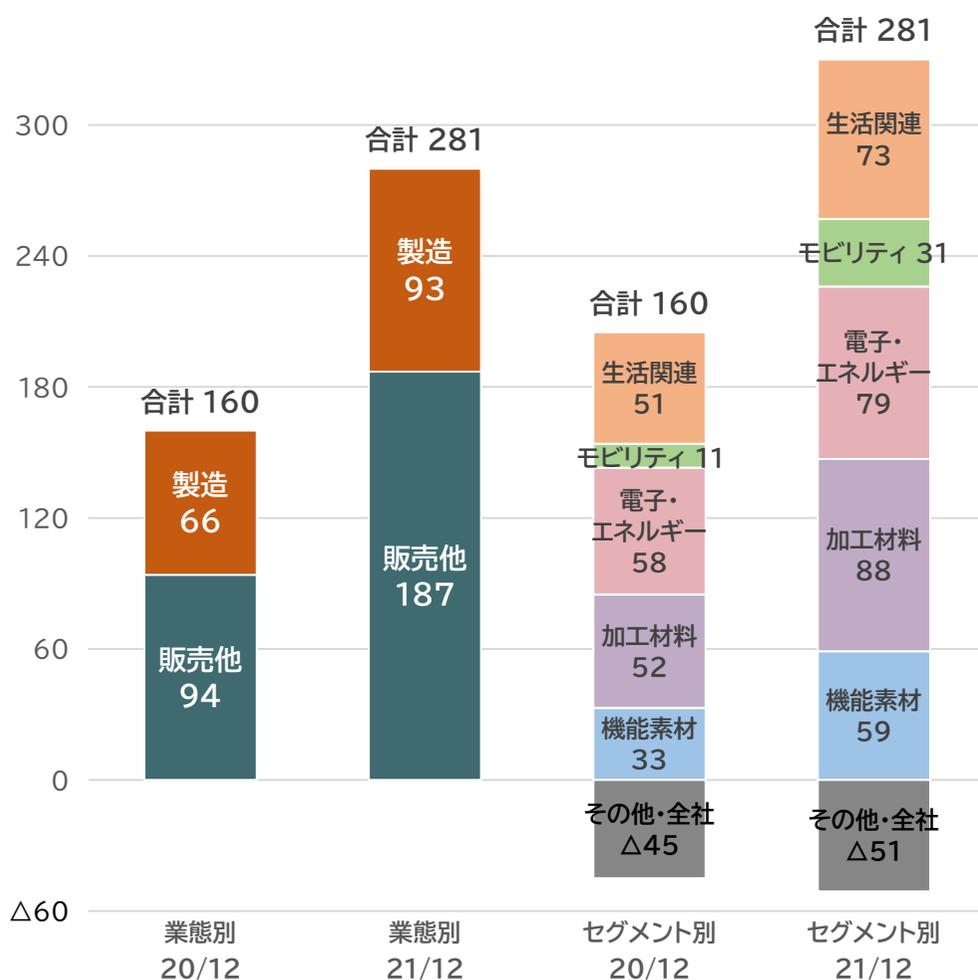
### 売上総利益 四半期推移 (億円)



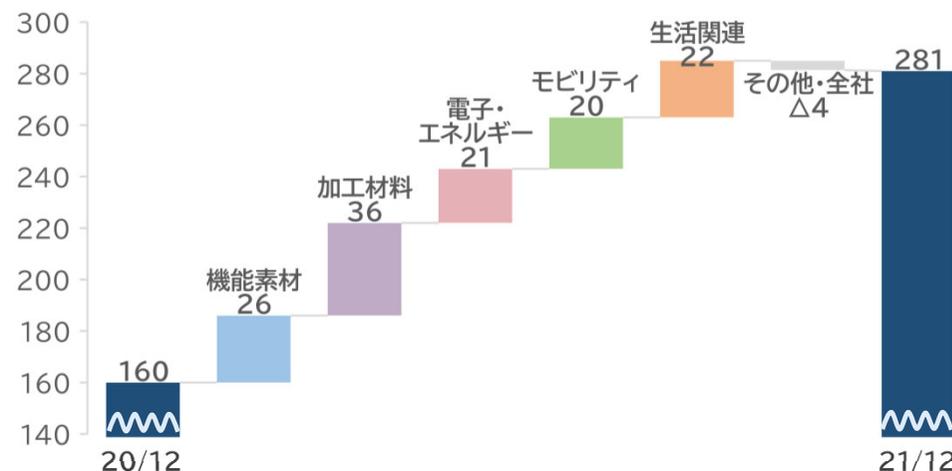
# 業態・セグメント別営業利益 2期比較

- ▶ 全事業セグメントの売上総利益の増加を受けて、営業利益は第3四半期時点で通期の過去最高営業利益を更新
- ▶ DX関連投資等、将来の持続的成長のための投資は継続して実施
- ▶ 一般管理費の増加等の影響により、第1四半期、第2四半期と比べ第3四半期の営業利益率は低下

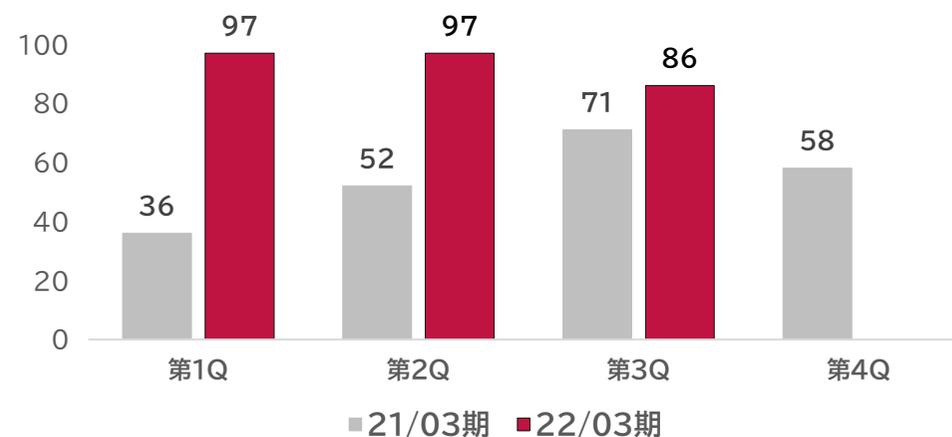
## 業態・セグメント別 営業利益 (億円)



## セグメント別 営業利益 増減 (億円)



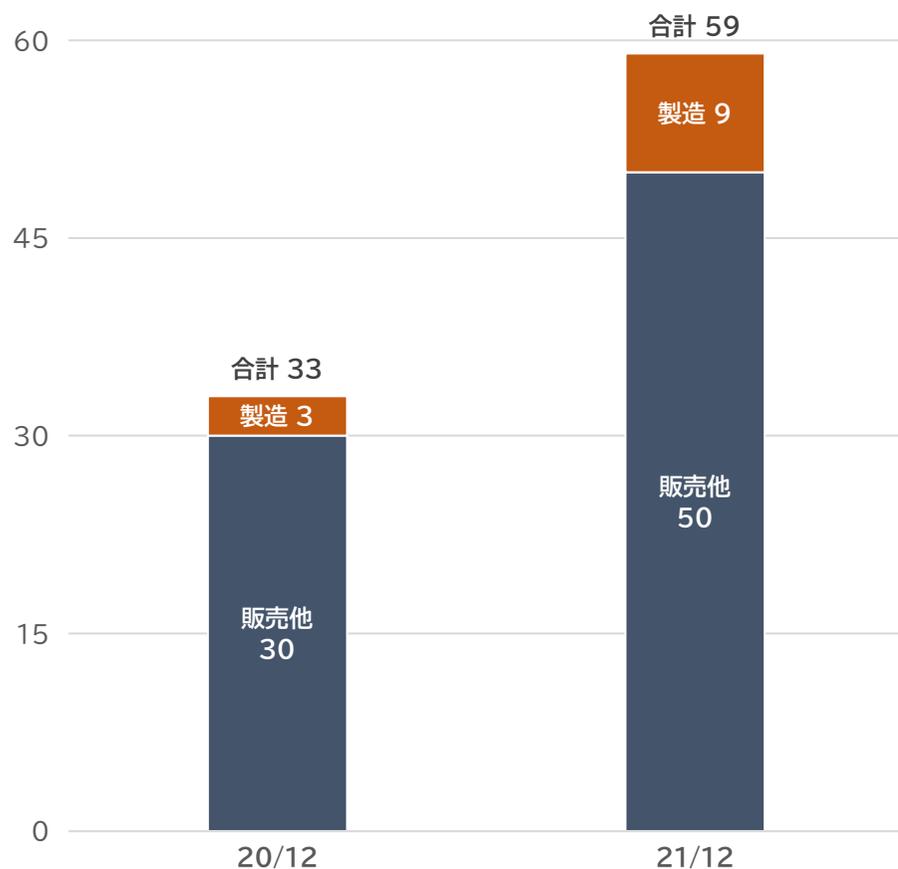
## 営業利益 四半期推移 (億円)



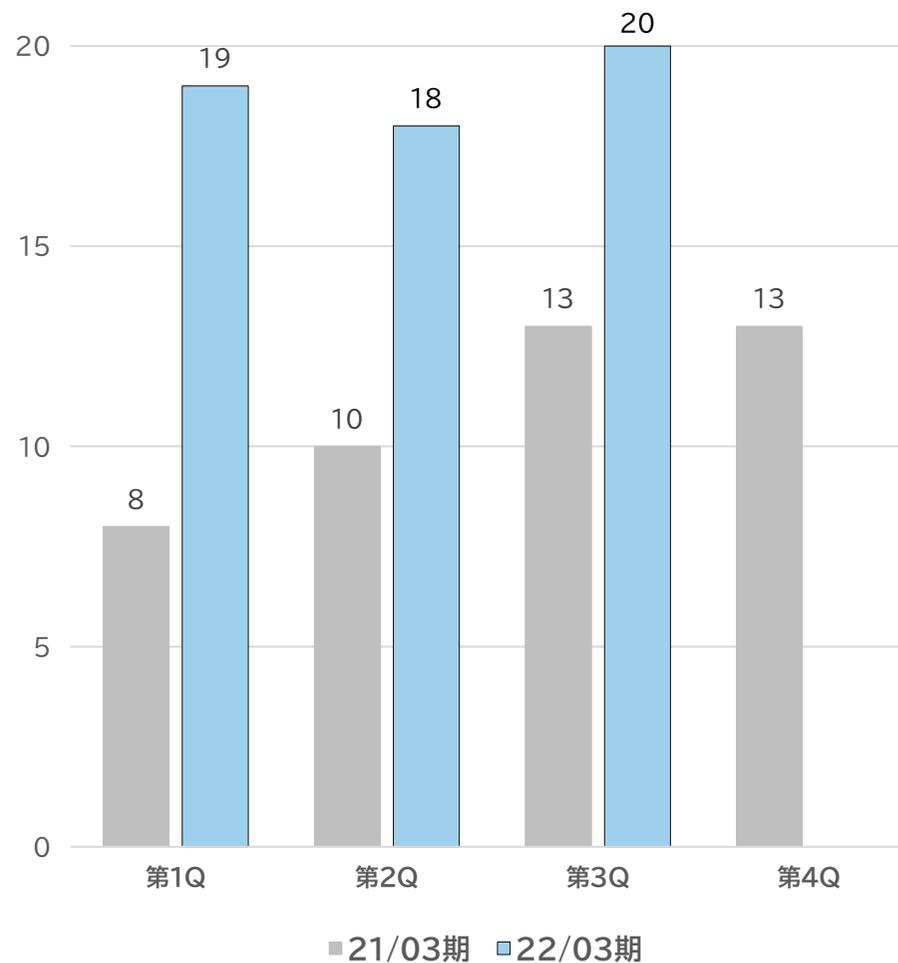
# セグメント 営業利益概況：機能素材

- ▶ 自動車生産台数の増加を受けて塗料・ウレタン原料や、加工油剤・樹脂関連の原料販売が増加
- ▶ 半導体関連等の電子業界向けのエレクトロニクスケミカル等の販売が堅調
- ▶ 営業利益は自動車関連ビジネスを中心に新型コロナウイルス感染症の影響が大きかった前年同期と比べて増加

### 業態別 営業利益 (億円)



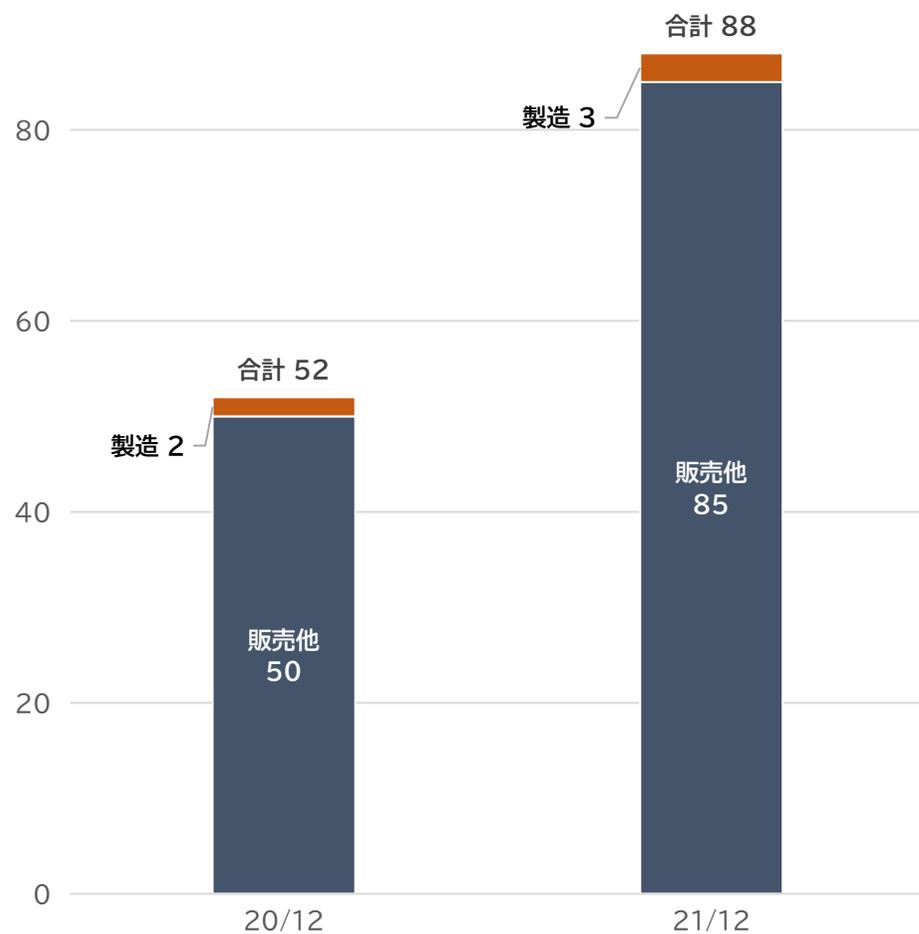
### 営業利益 四半期推移 (億円)



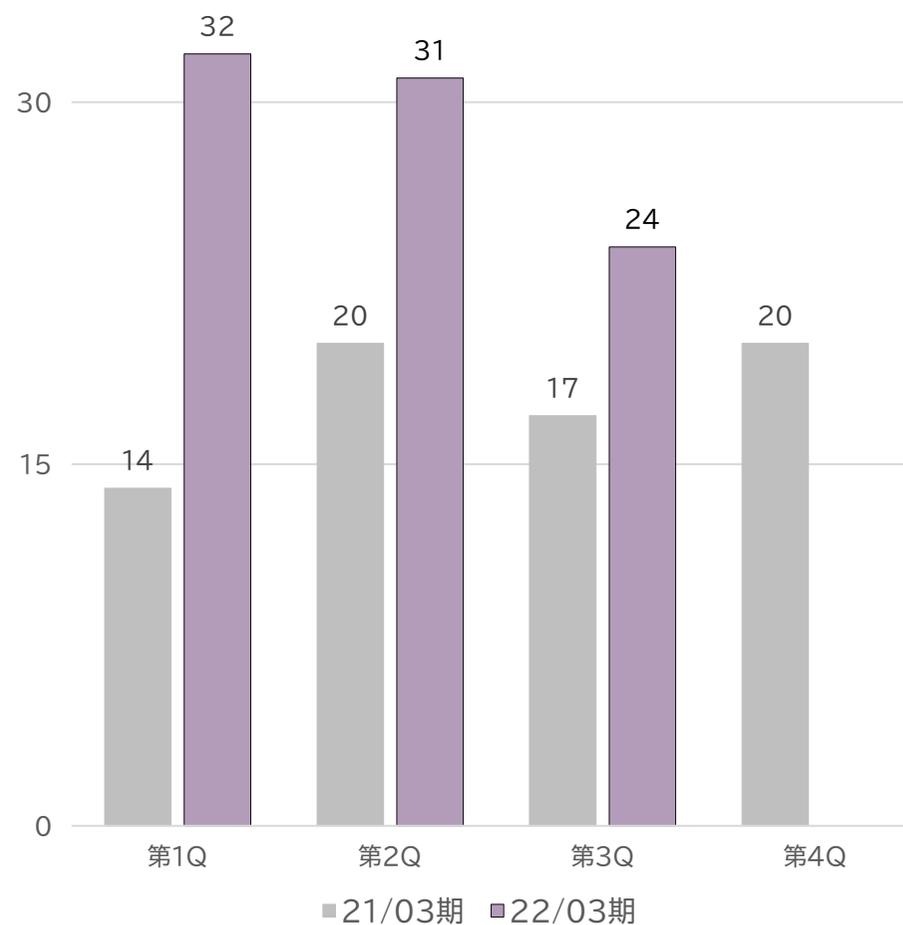
# セグメント 営業利益概況：加工材料

- ▶ 主にOA・ゲーム機器業界向けへの樹脂ビジネスは国内および中国を中心とした海外での需要増加、市況の高騰等の影響により好調
- ▶ 情報印刷関連材料の販売は前期下期からの市況下落の影響等により引続き不調
- ▶ 営業利益は国内外の樹脂ビジネスの需要の好調、市況高騰による収益性の改善影響が大きく、前年同期と比べて大きく増益

### 業態別 営業利益 (億円)



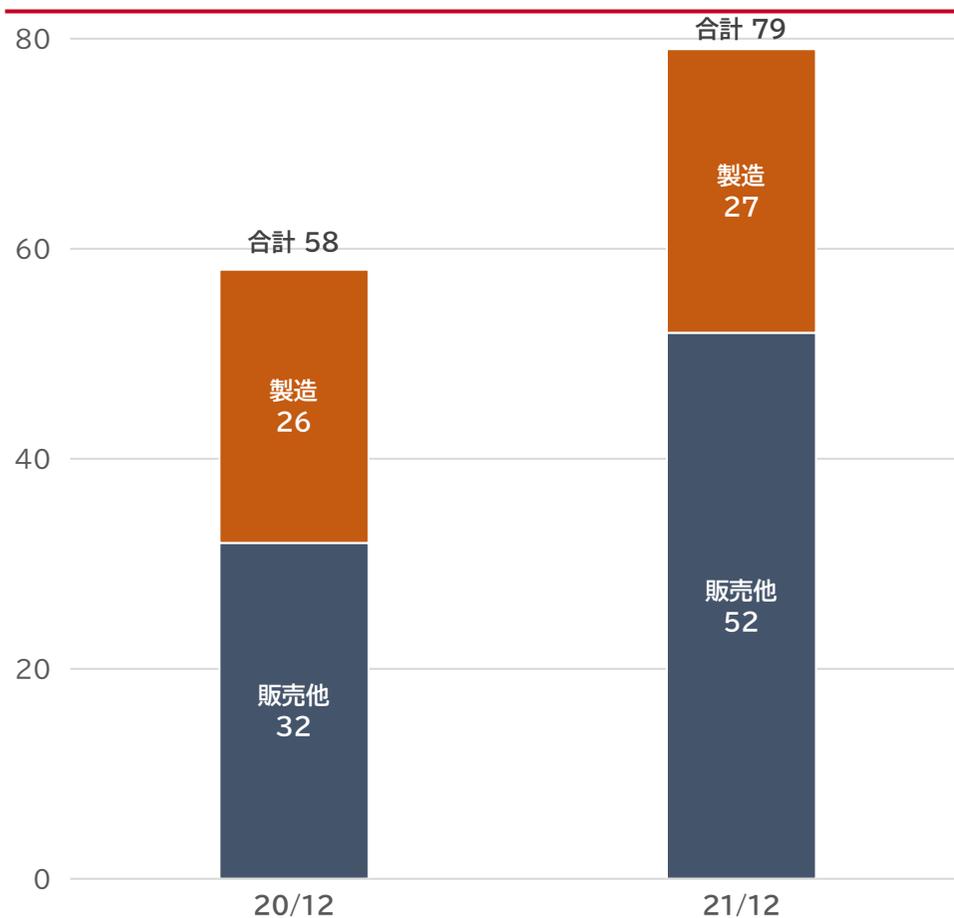
### 営業利益 四半期推移 (億円)



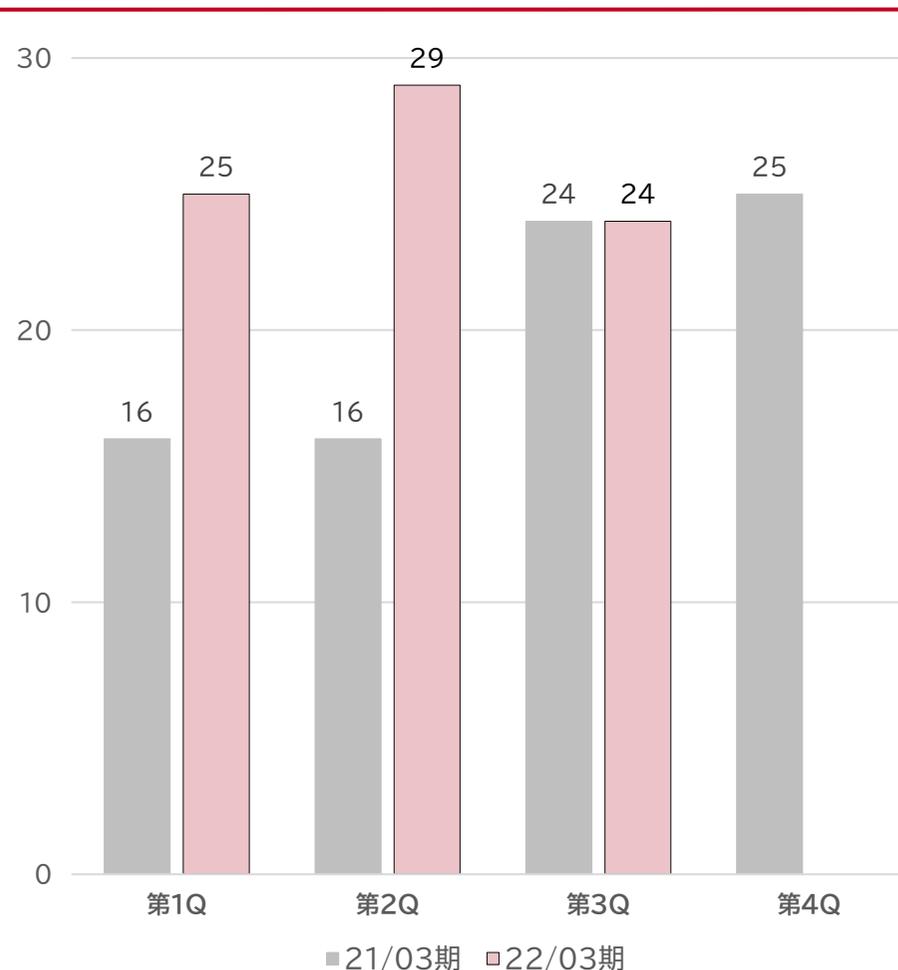
# セグメント 営業利益概況：電子・エネルギー

- ▶ ディ스플레이関連材料や、半導体用途向けの精密加工関連の販売が増加
- ▶ モバイル機器および半導体用途等を中心とした変性エポキシ樹脂関連の販売が増加
- ▶ 次世代通信関連ビジネスの体制を整備、開発費用先行だが中長期的な成長を目指す

### 業態別 営業利益 (億円)



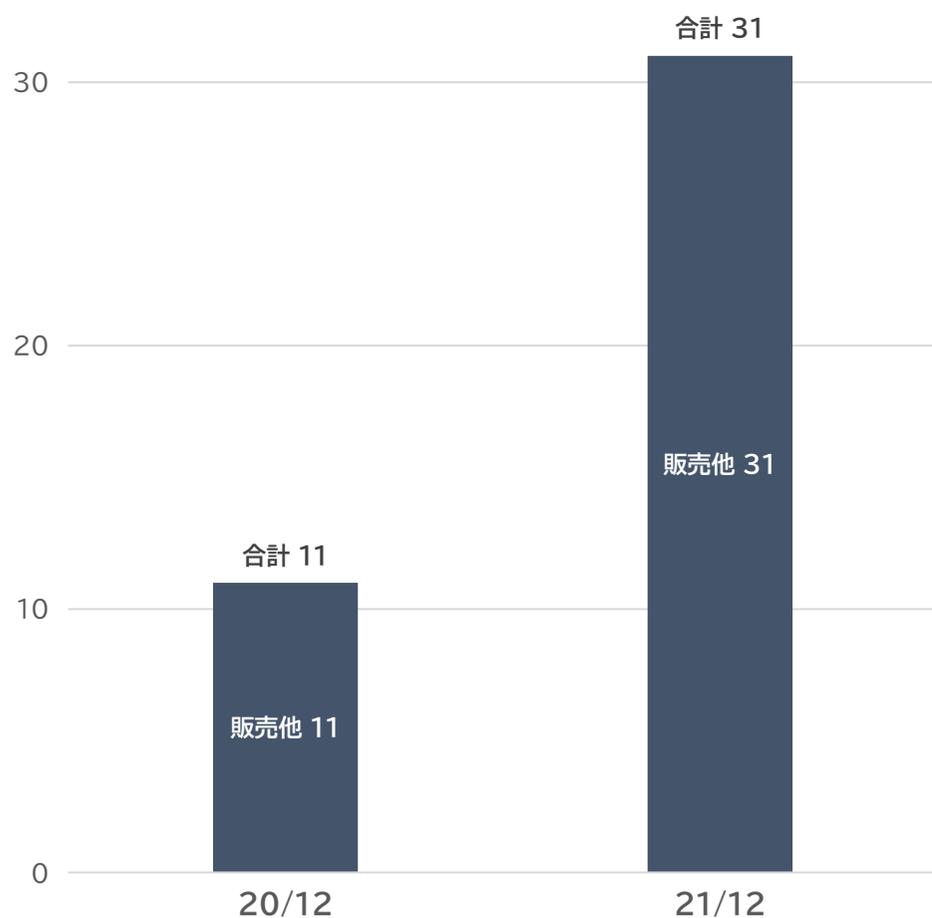
### 営業利益 四半期推移 (億円)



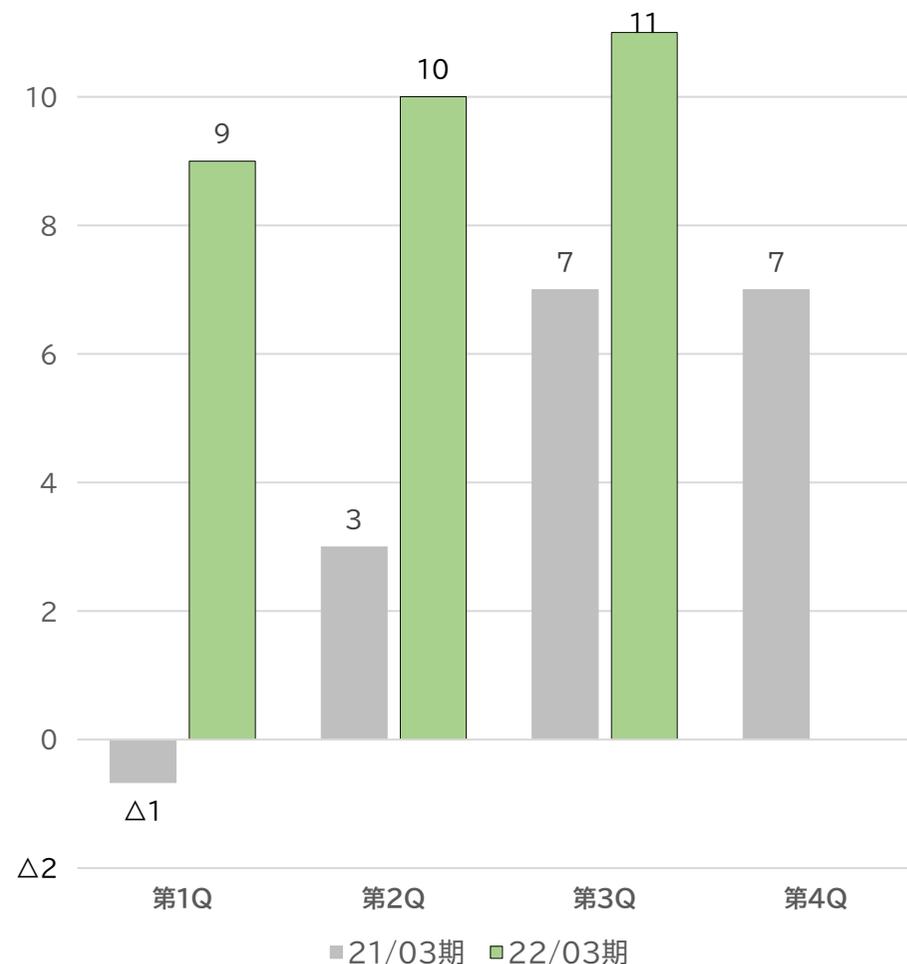
# セグメント 営業利益概況：モビリティ

- ▶ 国内およびアセアンを中心とした海外における樹脂ビジネスの販売が増加し、市況の高騰により収益性も改善
- ▶ 内外装・電動化用途の機能素材・機能部品の販売が増加
- ▶ 自動車生産台数の回復を受けて、前年同期と比べて大きく増益

### 業態別 営業利益 (億円)



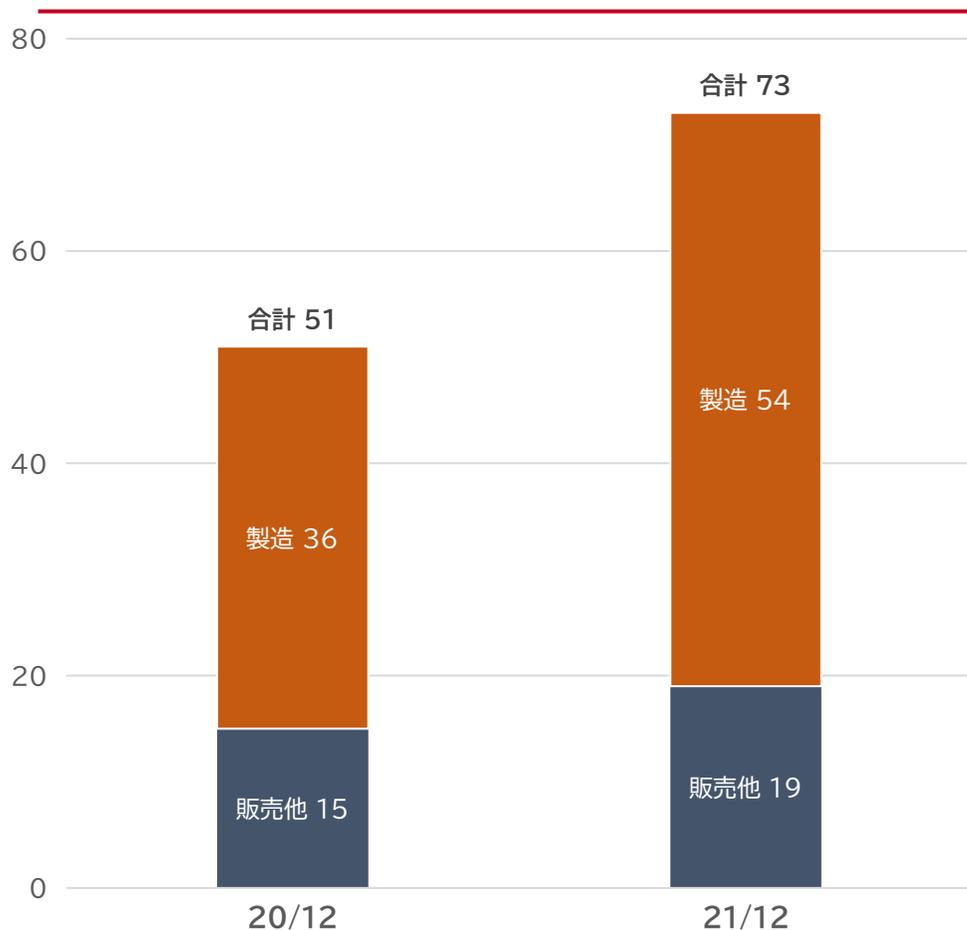
### 営業利益 四半期推移 (億円)



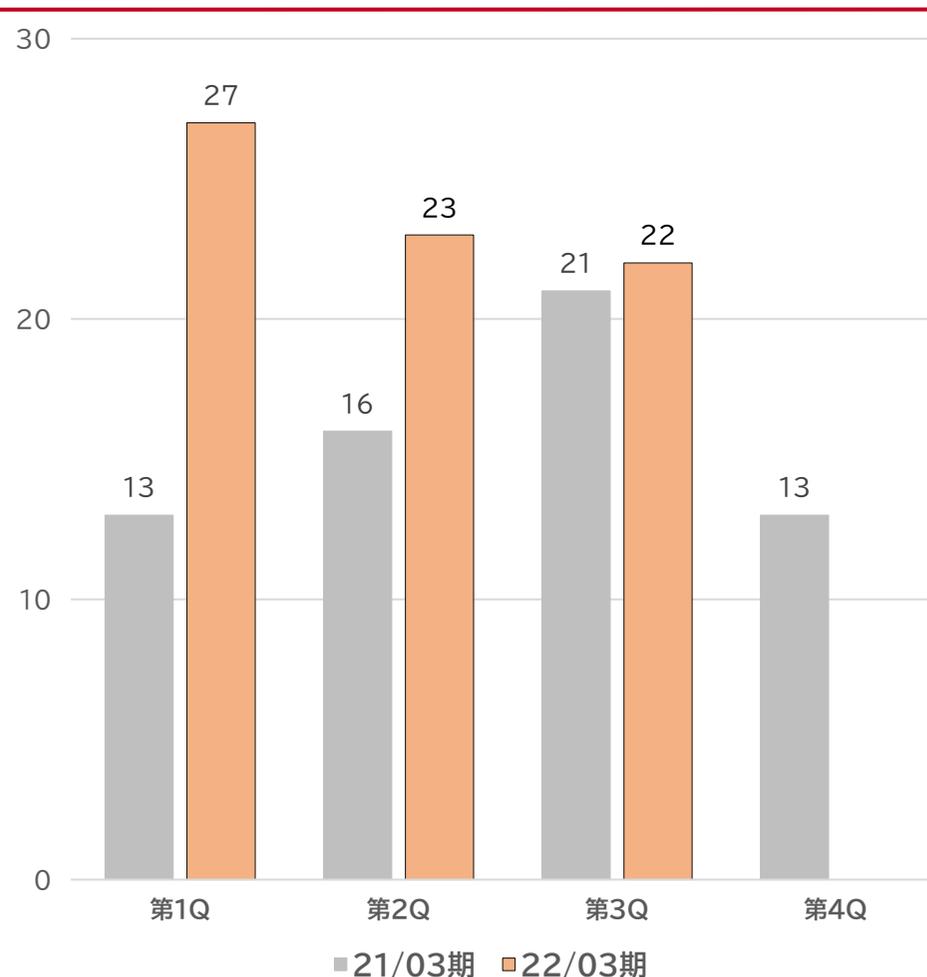
# セグメント 営業利益概況：生活関連

- ▶ Prinovaグループにおけるニュートリション関連ビジネスは素材販売、製造加工ともに好調に推移
- ▶ トレハ®等を中心とした食品素材、AA2G®等を中心とした香粧品素材、医薬品中間体・原料関連の販売が増加
- ▶ 食品素材、香粧品素材を中心に新型コロナウイルス感染症の影響を受けた前年同期と比べて大きく増益

### 業態別 営業利益 (億円)



### 営業利益 四半期推移 (億円)



# 主要製造子会社の業績概要

- ▶ ナガセケムテックス：主にモバイル機器・半導体向けの変性エポキシ樹脂関連、ディスプレイ用途のフォトリソ材料等の販売好調により、増益
- ▶ 林原：食品素材トレハ®および香粧品素材AA2G®の需要の回復を受け、増益
- ▶ Prinovaグループ：米国経済の回復を受けたニュートリション素材の販売好調の維持および製造加工の復調もあり、増益

(単位:億円)

		20/12	21/12	増減額	前年同期比
ナガセケムテックス	売上高	188	221	33	118%
	売上総利益	59	69	10	117%
	営業利益	24	32	7	129%
林原	売上高	179	200	21	112%
	売上総利益	75	81	6	108%
	営業利益	32	34	2	108%
	のれん等償却費	23	23	-	100%
	償却費負担後営業利益	9	11	2	128%
Prinova グループ	売上高	656	857	201	131%
	売上総利益	125	160	34	128%
	営業利益	37	55	17	148%
	のれん等償却費	14	14	0	101%
	償却費負担後営業利益	22	40	17	179%

# 連結貸借対照表

- ▶ 流動資産：好調な業績を受けて売掛債権、棚卸資産が増加(運転資本が増加)
- ▶ 純資産：投資有価証券の時価下落や配当金の支払い・自己株式の取得はあったが、四半期純利益の計上により株主資本は増加
- ▶ NET D/Eレシオ：運転資本増加による資金需要で短期借入が増加し0.31倍と上昇

(単位:億円)

	2021年3月末	2021年12月末	増減額	主な増減
流動資産	4,017	4,863	846	
(現金及び現金同等物)	492	488	△4	
(売掛債権)	2,425	2,890	464	
(棚卸資産)	972	1,359	387	
固定資産	2,388	2,389	0	
(投資有価証券)	937	894	△42	
資産の部合計	6,405	7,253	847	
流動負債	2,061	2,882	821	短期借入金・CP+414、1年内償還社債+100
固定負債	960	821	△138	
負債の部合計	3,021	3,704	682	
株主資本	2,847	2,961	113	自己株式△49
その他の包括利益累計額	449	482	33	為替換算調整勘定+74、有価証券評価差額△38
非支配株主持分	87	104	17	
純資産の部合計	3,384	3,548	164	
運転資本	2,198	2,741		
自己資本比率	51.5%	47.5%		
NET D/Eレシオ	0.23	0.31		

# 2022年3月期 通期業績見通し

- ▶ 樹脂ビジネスの市況高騰による収益性の改善や、Prinovaグループにおけるニュートリション関連ビジネス、エレクトロニクス関連ビジネスの好調を受けて連結業績全体は第3四半期累計において、前年同期比で大幅な増益
- ▶ 特に樹脂ビジネス、自動車関連ビジネス、エレクトロニクス関連ビジネスを中心に第1四半期公表の修正見通しを越える水準となる見込み
- ▶ 第4四半期においては樹脂ビジネスの収益性低下や、業績好調を受けた一般管理費の増加等が見込まれるが、通期では2021年第1四半期公表の見通し以上の業績を見込む(第1四半期に続き通期業績見通しを上方修正)

(単位:億円)

	21/03 実績	22/03 見通し (修正前)	22/03 見通し (修正後)	増減額	増減率
<b>売上総利益</b>	1,146	1,300	1,380	80	6.2%
<b>販売費及び 一般管理費</b>	926	1,000	1,030	30	3.0%
<b>営業利益</b>	219	300	350	50	16.7%
<b>経常利益</b>	228	310	365	55	17.7%
<b>親会社株主に帰属する 当期純利益</b>	188	225	250	25	11.1%
US\$レート (期中平均)	@ 106.1	@ 109.5	@ 111.9		
RMBレート (期中平均)	@ 15.7	@ 16.9	@ 17.4		

# 2022年3月期 セグメント別業績見通し

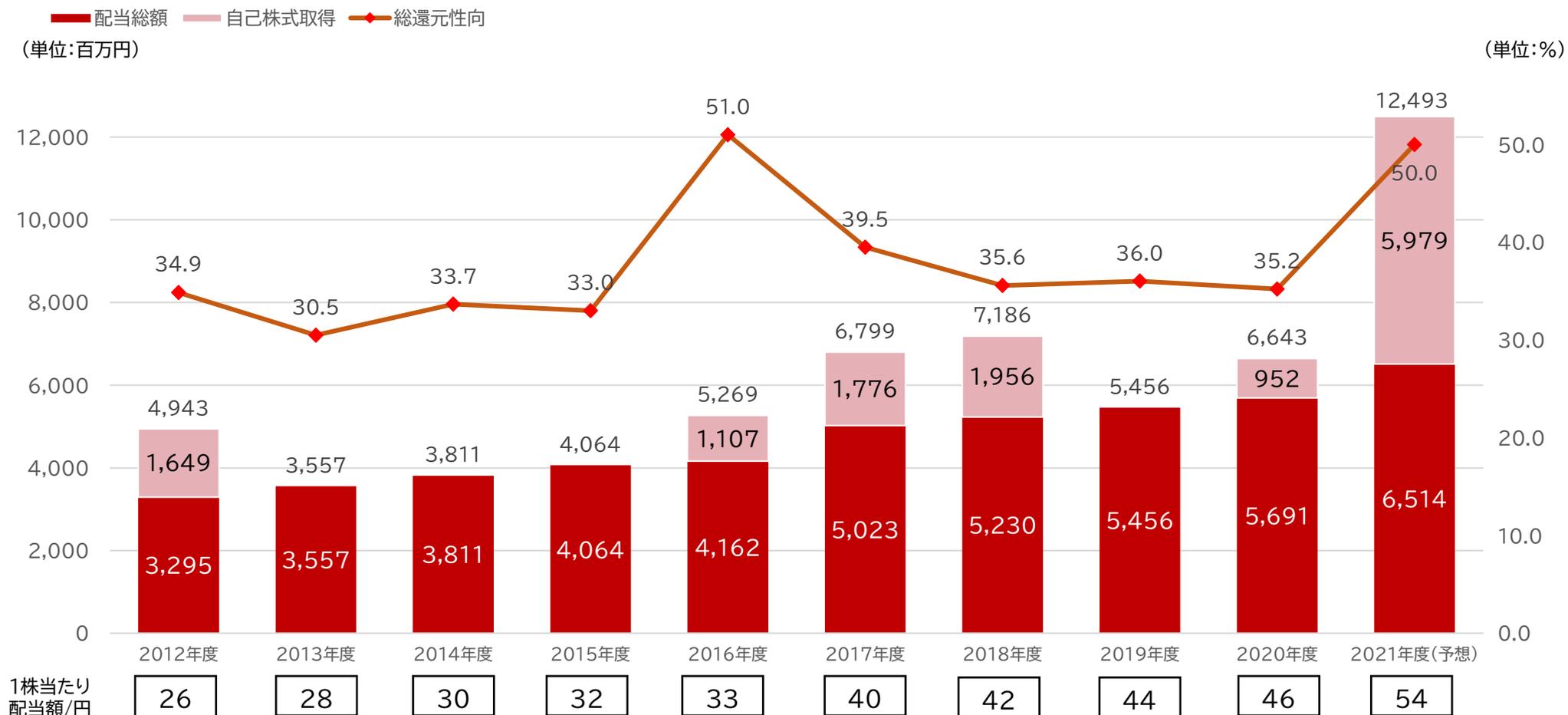
- ▶ 足元では市況下落による減速が見られるが、樹脂ビジネスは通期では前回見通しよりも上振れ見込み
- ▶ 生活スタイルの変化によるデジタル機器の需要増加等を受けたエレクトロニクス関連、自動車関連ビジネスも前回見通しを上回る水準で推移
- ▶ 第4四半期においてビジネスの好調を受けた一般管理費の増加や、加工材料セグメントにおける樹脂ビジネスの収益性低下が見込まれるものの、通期営業利益は過去最高益を大幅に更新見込み(過去最高益:2019年3月期 252億円)

(億円)

		21/03 実績	22/03 見通し (修正前)	22/03 見通し (修正後)	増減額	増減率
機能素材	売上総利益	155	177	195	18	10.2%
	営業利益	47	66	78	12	18.2%
加工材料	売上総利益	268	295	319	24	8.1%
	営業利益	73	96	108	12	12.5%
電子・エネルギー	売上総利益	255	274	298	24	8.8%
	営業利益	84	88	100	12	13.6%
モビリティ	売上総利益	89	112	124	12	10.7%
	営業利益	18	34	41	7	20.6%
生活関連	売上総利益	374	437	439	2	0.5%
	営業利益	65	93	93	—	—
その他・全社	売上総利益	1	5	5	—	—
	営業利益	△ 68	△ 77	△ 70	7	—
連結合計	売上総利益	1,146	1,300	1,380	80	6.2%
	営業利益	219	300	350	50	16.7%

# 株主還元状況

- ▶ 当初想定よりも好調な業績を受け、期末配当予想を引上げ(特別配当6円加算し、期末配当金30円、中間含めた年間配当金は54円を予定)
- ▶ 2021年2月決議の60億円の自己株式取得は完了し、新たに60億円の自己株式取得を決議(取得期間:2022年2月~2023年2月予定)



※ 2017年度の配当金には、特別配当金5円を含んでおります。  
 ※ 2021年度の配当金には、特別配当金6円を含む予定です。  
 ※ 2021年度の期末配当金は、2022年6月開催予定の第107回定時株主総会に附議予定です。



<https://www.nagase.co.jp/>

当プレゼンテーション資料には、2022年2月9日時点の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競合状況・為替変動等に関わるリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。